

「かかりつけ医」を持ちましょう

団塊の世代の人が75歳を迎える今から10年後、3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上というかつて私たちが経験したことがない高齢社会を迎えます。高齢になると複数の病気を抱えたり、身体が衰えて病院に通うことが難しくなるなど、自宅で医療や介護が必要な高齢者が増えます。そのため、国は、住み慣れた地域で出来るだけ長く安心して過ごすことができるよう、在宅医療を推進しています。

在宅医療において、中心的な役割を担うのが「かかりつけ医」です。

「かかりつけ医」とは、病気になったときに気軽に相談ができる身近な医師のことです。いつも同じ医師が診察するので、信頼関係が高まり、意思の疎通がはかりやすくなります。

また、精密検査や高度な治療が必要となる場合は、専門病院を紹介してくれるなど、適切な処置を受けることができます。

急に具合が悪くなったときに備えて、日ごろからいざというときに相談ができるように「かかりつけ医」を持ちましょう。

<かかりつけ医を選ぶポイント>

- 自宅または勤務地の近くにある。
- 気軽に相談できる。
- 話をよく聞いてくれる。
- 病状や治療法などについての説明がわかりやすい。
- 入院や検査などが必要となる場合は、適切な専門医療機関を紹介してくれる。

尾北医師会では、平成27年4月から平成30年3月まで、在宅医療サポートセンターを設置し、在宅医療を提供できる仕組みづくりを支援します。

問合先

一般社団法人尾北医師会
在宅医療サポートセンター
電話（0587）95-7027